

# 食品事業者における環境配慮設計の取組事例

資料3

	味の素(株)	サントリーグループ
取組概要	2015年度までの「味の素(株)容器包装3R推進計画(第2次)」(2011-2015年度計画)を策定し、取り組みを推進。Reduceの数値目標に加え、「ムダを減らした包装」「詰め替えができる包装」「簡単に分別できる包装」「環境負荷の低い包材の採用」を開発目標に掲げ、3Rを推進。	3R(Reduce・Reuse・Recycle)の考え方に基づき、環境に配慮した容器包装を開発。従来取り組んできた方法に加え、再生可能資源の活用など、新たな技術の開発にも積極的に挑戦し、「イノベイティブな3R」を推進。
使用している環境配慮の設計の基準	商品を発売する際には「容器包装環境対応アセスメント」の実施が必須条件。アセスメントでは、20年以上にわたり独自の評価基準である「容器包装エコインデックス」を使用。	自主基準として「環境に係る容器包装等設計ガイドライン」を設定。リサイクルの面から、ラベルの材質、ガラスびんの色などをガイドラインに沿って設計。
成果品	 <p>「ほんだし®」120g箱を40g × 3袋から60g × 2袋に設計変更。包材重量を年間78トン削減。</p>  <p>「味の素 KK 中華あじ」等の瓶品種に、分別しやすく、リサイクルしやすい簡単にはがせるラベルを導入。</p>	 <p>「サントリー天然水」2ℓペットボトルを、従来品より6g軽量化、国産2ℓペットボトル初の30g以下の重量を実現。</p>  <p>再生PET樹脂を100%使用して、新たなペットボトルとして再生した「リペットボトル」を、「サントリーウーロン茶」2ℓ等の一部に導入。</p>